

◆意見・感想

- ワークショップを通して、関心をもって観察すること、意識して見ることで相手がよく見えてくるということを学びました。また、短所より長所を多くもち、自分の良いところを認めるように努めていきたいと思います。【40代女性】
- 普段「人権」という言葉は身近で使用しているが、今回改めて「人権」とはと問われると本当の意味を答えることができなかった。人間全てに「人権」があり、誇りをもって生きることが保障されるべきであることを再認識できました。【50代女性】
- 「ありがとう」たった5文字に沢山の思いが込められているんですね。本当に大切な言葉だと思いました。【30代女性】
- 患者とは誰か？「傷ついた時のあなたです」と話していただいて、深いなあと感じた。授業でも患者さんの気持ちにより添う大切さを学んできたが、この言葉を聞いてとても納得したし、改めて自分の立場に置き換え援助していくことが大切だと学ぶことができた。貴重な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。【20代女性】
- 人権について思うことが変わった。生きている人はどんな人でも平等に人間として生きていく権利がある。自分では自己主張をできない人に対しては、一人の人間として周りの人間が本人にとって良い方法を選択することが大切だと感じた。【10代女性】
- 介護の仕事をしていて8年経過していますが、仕事をしている中で言葉の身体拘束について考える機会がありました。身体拘束についての講義を受ける機会があれば良いなあと思います。長所を多く見つけることができる人は、相手の良いところを見つけてあげるのが上手という話は、とても印象に残りました。貴重な講義を開催していただきありがとうございました。【20代女性】
- 意識をもって見ることが大切だと思いました。【20代女性】
- 講義では、人権を学びましたが、人権だけでなく、生き方や価値観をも考えさせられるものとなりました。【20代女性】
- 様々な視点からの「人権」のとらえ方に感動しました。人権についてあまり深く考えたことがなく、反省した部分も多くありました。今後様々な患者さんと接する上で、考え方の土台にしっかりと人権と個人の尊厳をもちたいと思います。【30代女性】
- 今まで気になっていたが聞けなかったことが、例等があって分かりやすくとても勉強になりました。DV等私も経験したことがあるので、これからは合わないよう、そして合わせないように一人一人の想いを尊重していきたいと思いました。ありがとうございました。【10代女性】
- 自己肯定感は、「あなた生きて良い、大切だ」と自分以外の人から認められて初めて満たされることが分かった。自尊感情を傷つけられるとはつまり、誇りを傷つけられることである。人はこれらがあって他人を認めることができるということも学んだ。倫理は看護師の根幹をなす部分である。これからも大切に育んでいきたい。【20代女性】

- これから誇りをもって生きていきたい。悩みがあったらチャレンジ！【10代女性】
- 人権について聞くことができ、良かったです。「私には誇りをもって生きる権利がある。」という言葉が印象に残りました。生きていることに誇りを持ち、相手が生きていてくれる側にいてくれることに感謝をしていきたいです。【10代女性】
- 医療行為だけでなく、人権を考えながら仕事ができる看護師になりたい，【10代男性】
- 人権について改めて考えることができ、一人の人間として自分の意思を大切に生きていこうと思いました。【20代女性】
- 「誇りをもって生きる」という言葉がとても印象的でした。少し難しいところもありましたが、人権について前より興味・関心を持ちました。今度は「子どもの人権」「障害のある人の人権」について知りたいです。ありがとうございました。【10代女性】
- 最初は難しい内容なのかな？と思っていましたが、とても分かりやすく楽しく学ぶことができました。【10代女性】
- 「私は誇りをもって生きる権利がある！」くじけそうになった時は思い出したい。
【10代女性】
- 今まで何気なく見ていた物事は、関心をもって見ることで見え方が違うということをお話され、これからは関心をもって見ていこうと思った。そうすれば、今まで見えてこなかったことが見えるかもしれないと感じた。【10代女性】
- 私は1つのことに集中すると他のことが見えなくなってしまうので、もっと意識してみたいと思いました。また、一人一人誇りをもって生きる権利があるという言葉に心を留め、今後人権についてしっかりと考え生かしていきたいと思えます。【10代女性】
- 今まで人権について深く考えたことはなかったが、今回の研修会を通して、視点によって物事の見え方が変わることを、関心をもって物事を見ることの大切さを学びました。
【10代女性】
- 人権について、今まで深く考えたことはなかったが、今回の講義を聞いて、しっかり考えることができた。患者とは何かと聞かれたら、疾病にかかった人と思っていたが、「患者とは傷ついた時の私たち」といわれてハッとした。【10代女性】
- 毎年講義に「ユマニチュード」を入れています。今年も講義内容に含めて話したいと思えます。【50代女性】
- 現在、実際に実習を行ったり、職場で働いている中で患者さんを人間として尊重していると思いつながり過ぎてきました。しかし今日の講義を受け、患者さんを教育の材料だと思っていた自分に気づきました。とても良い講義でした。【20代女性】
- 実習の中でも人権について考えることが沢山ある中で、今回の講義で実習の時に実施してみたいこと、注意してかかわってみたいことが沢山ありました。実習生として病院のやり方から従わなくてはならない、実習をさせていただいているという気持ちで行っているのですが、実習中に抑制などで人権問題にあたるなど感じたときはどのように対処すると良いですか。実習生としてそのまま従うしかないのでしょうか。【10代女性】
- 情報があふれる今の時代に人権を守ることの難しさを感じていました。上下関係と守秘義務との間で人間らしさを維持することはとても難しいと考えます。健全であることを大

切にしていきたいです。【30代男性】

○ただ生きるということではなく、その人らしく生きることができるように関わっていくことは、まず自分が自分らしくいることだと思います。患者さんとの出会いを大切にしていきたいです。【20代女性】

○今後の実習での患者さんの見方を「患者さん＝傷ついた時の私たち」であるということをお忘れずに、接していきたいと思いました。【20代女性】

○改めて人権とは何なのかを考えさせられた。個人の尊厳と人間の尊厳の違い、患者の人権などについて学ぶことができた。【10代男性】

○「私には誇りをもって生きる権利がある」ということをこれから先の医療にたずさわる上で人と人との関係での目標としていきたいと強く思った。【20代女性】

○『私には人権がある。あなたにも人権がある。お互いが一人の人間である。』ということをお理解し、付き合っていけたら世界平和も夢じゃない。」と思えた研修会でした。ありがとうございました。【10代女性】

○今回人権についての講義を受け、患者とは人間とは人権とは等、様々なことについて学ぶことができ、これからの実習でどう生かしていくのか、どう見方を変えていくのか意識を変えることができた。まず、患者、人間のことを理解しなければ良い看護ができないと気づいた。治療や今後の生活に不安を抱えている患者さんの気持ちに寄り添う姿勢や態度がとても大切だと感じた。【10代女性】

○本日の研修会に参加したことで、人権に対する考え方が180度変わりました。今後人生を歩んでいく上で、本日の研修会で学んだことを生かしていきたいです。【20代男性】

○自分の中の人権の考え方が変わった研修会だった。うやむやになっていた人権というのがしっかりと確立されたものになった。【10代男性】

○「意識することで物事がよく見える」「意識するかしないかで見え方が異なる」等、とても意味の深い言葉だなあと感じた。実習も残り少なくなりましたが、考え方が変わる研修でした。ありがとうございました。【20代女性】

○「私には誇りをもって生きる権利がある。」ということから、「誇りをもって生きよう」、「自分をもって生きよう」と思いました。自分だけでなく、周りの全ての人達がそう思いながら生きていけたら、とても素晴らしいことだと思います。【40代女性】

○とても素晴らしいお話を聞かせていただきありがとうございました。私自身、自己肯定するという課題について考えています。どうしても否定の方が多く、他者の目や見方が気になる、自信がもてない状況が続くことがあります。しかし今回、自分はいろいろな人に愛されているということをお改めて理解し、家族は必ず見捨てはしないのだ、どうどうと生きていくというスイッチの切り替えが大切なのだとお学びました。「たゆたえども沈まず」ですね。【30代男性】

○「私には誇りをもって生きる権利がある」ととてもよい言葉です。自信をなくしたときは、この言葉を思い出そうと思います。【40代女性】

○ユマニチュードという言葉をお初めて聞いた。ベースには人権を尊重する気持ち、差別をしない気持ちがあることだと感じた。現場に出ても忙しいと思わず仕事をしたいです。「ブ

ス」は屈辱でも「デブ」は屈辱ではないと個人的に考えている。【20代男性】

◆研修を終えて

○末田先生による「気づきのワークショップ」では、代表の学生の行動を観察するワークショップから、「人は意識するかどうかわで見え方が変わる。どこに視点をあてて何をしようとするかが大切である」ことを学んだ。また、自分の良さを意識することができれば、他者の良さも見ることが出来る。自分の良さを認識し、それを伸ばすことが大切であることを、「自己肯定感」「自尊心」という言葉を用いて示していただいた。

○三條先生による「人権をとらえる視点」では、人権とは「人間として誇りをもって生きることが保障され、自己の意思で生活を創造することが尊重される権利」であり、人間としての尊厳と個人の尊厳を保障される権利であることを学んだ。また、医療看護行為は、真に「患者の人権を擁護する」実践的営みであり、その患者とは「傷ついた自分」である。看護師として患者への接し方、心配りをもう一度考えてほしいとのまとめであった。

○末田先生による「セルフエステーム」では、改めて「自尊心」「自己肯定感」について学び、「自分を認めることは他人を認めることにつながる。まず自分のできないことより、自分のできることへの評価を行うことができること」が大切であるとまとめられた。

○受講者は、常に患者を目の前にしている学生であることから、現実を意識しながら大変意欲的に受講していた。受講後の感想からは、「他人を見る目・見る心、患者を見る目・見る心が大切である。」「常に患者の心に寄り添いたい。」といった、前向きなものであった。

○お二人の話とも、これまでの長い経験に裏打ちされた本質的なものであり、「人権」を身近な目線で分かりやすく感じることが出来るものであった。このような話を、多くの医療及び看護に関わる方々に聞かせていきたい。

○本研修会の内容について、98%が「とてもよかった」「よかった」と答えている。

○この研修により、人権に対する考え方が変わったと答えている参加者が95%と高かった。日頃の実習生活の中で、常に意識していることが分かった。

○今後も人権について学ぶ機会を必要としている参加者が80%と高かった。このような研修の機会を充実させていく必要があると考える。